資料２

**平成29年度　大阪府立障がい者自立センターにおける支援状況報告**

**１．利用者の状況**

**【原因疾患等】**

◆**利用者男女比**

　　男性：女性＝５．５　：　１

◆**利用開始時年齢**

　　平均　４７．６歳　（１９～６３歳）

◆**高次脳機能障がい者の割合**

　　９３．２％

**◆平均利用期間**

　　機能訓練：１３．３ヶ月

　　生活訓練：　７．２ヶ月

**【入所経路】**

**【退所後の状況】**

◆**退所後の日中活動**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 復職 | 新規  就労 | 復学 | 職業訓練  就労移行 | 就労Ａ・Ｂ | 家事  趣味活動 | 生活介護  自立訓練 | 介護保険  デイ | 病院 |
| 機能訓練 | ２０ | — | — | ８ | ２３ | ２５ | １５ | ９ | — |
| 生活訓練 | ６ | ６ | ３ | ３０ | ２７ | ６ | １９ | — | ３ |

　（％）

**◆退所後の生活場所**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 家族と同居 | 単身 ※1 | ＧＨ・ＣＨ | 施設 ※2 | 病院 |
| 機能訓練 | ５４ | ２８ | ３ | １５ | — |
| 生活訓練 | ８２ | ９ | ６ | — | ３ |

※1　サービス付き高齢者住宅を含む　※2　有料老人ホーム等　　　（％）

**２．支援の状況　　※自立センターの紹介DVD参照**

**【支援プログラム等】**

・障がいの状態やADL自立度等に応じてグループを分け、それぞれに適したプログラムの提供を目指している。集団で実施することで、他者を鏡として自身の障がい理解の促進につなげている。

・各プログラムは、例えば、失語症の方を対象とした『言葉・交流』、左半側空間無視のある方を対象とした『注意力と運動』など、目的と対象者、内容を吟味し作成している。4か月毎にプログラム内容を見直し、各利用者の障がいに見合ったプログラムの提供を行っている。

・施設生活場面では、例えば、薬を飲み忘れないよう、職員の手渡しから始め、服薬カレンダーやチェックリスト等を用いて自己管理できるようにしたり、発動性が低い人に対して、移動に声かけが必要なところから、アラーム等を用いて移動できるようにしたりと、徐々に介助量を減らし生活の中で自分でできることを増やしていっている。

**◆グループワーク**

　障がい理解を促進し、退所後の生活・就労をイメージしてもらうために、チェックリストやDVD視聴等を通して意見交換をしたり、社会資源の情報提供等を行った。対象者別に、4種類（①高次脳機能障がいの方（2か月間計8回）②失語症の方（2か月間計8回）③就労を目指す高次脳機能障がいの方（4か月間計16回）④脊損・頚損の方（2か月間計8回））のグループワークを実施した。

**◆利用者向け講座**

2か月に1回、当センター職員や外部講師、退所者による講座を開催した。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 開催日 | 講座名 | 講師 |
| 平成29年5月25日 | 移動能力と高次脳機能障がい | 理学療法士 |
| 平成29年7月26日 | 感染症対策と皮膚トラブルなどについて | 医師・看護師 |
| 平成29年9月20日 | なぜ？ストレス | 精神科医師 |
| 平成29年11月21日 | 元気パワーは、健全な食生活から | 栄養士 |
| 平成29年11月21日 | 障害者職業能力開発校の概要説明 | 障害者職業能力開発校職員 |
| 平成30年1月23日 | 福祉制度について | ケースワーカー |
| 平成30年3月8日 | 退所者の話 | 退所者 |

**【地域移行支援】**

・調理評価、外出評価・訓練、職能評価、家屋調査、生活実習などを行い、生活環境や条件の整備を行っている。

・退所後の日中活動先やグループホーム等の見学・体験を適宜行ったり、関係機関への情報提供・共有を行ったりしながら、スムーズな地域移行を目指している。

**◆家族交流会**

　生活訓練利用者及びその家族を対象に、高次脳機能障がいの症状・対応や社会資源等についての講座、退所者の体験談、家族同士の意見交換等を行った。平成29年9月14日と平成30年3月9日に実施し、計40名が参加した。

**◆「使たらええで帳―高次脳機能障がいファイルー」の作成**

　退所後でもスムーズに支援が受けられるよう、発症・受傷からの経過や現在の障がい状況、対応方法等の情報をまとめ、本人・家族に渡している。平成29年8月末退所者から開始し、計34人に渡した。また、本人・家族を通して、地域移行先の事業所や相談機関等にも渡した。なお、「使たらええで帳」以外に、日常生活の様子やセラピストによる評価等の情報提供書を対象利用者76人に計286枚作成（急総初回受診時の紹介状、民事訴訟の資料は除く）し、医療機関や関係機関に渡した。

**◆アフターフォロー**

　退所後１ケ月後を目途に本人、家族、相談支援事業所などに連絡をし、状況を確認した。必要なサービスが利用できるよう、適宜情報提供等をした。29年度は47名に実施した。

**３．普及啓発・人材育成**

**◆医療機関向け施設見学・説明会**

回復期病院のMSWやセラピストを中心に、施設見学及び支援内容や利用手続きについて説明を行い、支援を必要とする人につながるよう周知を図った。平成29年6月22日と10月31日に実施し、計74名が参加した。

**◆研修・実習受け入れ**

　専門職研修、学生実習等の受け入れを積極的に行い、高次脳機能障がい及び中途障がい者への理解と支援の啓発に取り組んだ。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研修・実習名 | 日数 | 参加者数 |
| 大阪府主事・技師級研修Ⅲ（福祉体験） | 1日間×３５回 | 計115名 |
| 大学生 福祉専門職体験学習 | 1日間×4回 | 計34名 |
| 障がい者ホームヘルパー研修 | 1日間×5回 | 計14名 |
| 大阪府福祉専門職研修（講義・見学） | 半日 | 60名 |
| 大阪府福祉専門職研修（体験） | 2日間 | 1名 |
| 鴻池生活科学専門学校（介護福祉士） | 14日間 | 1名 |
| 大阪府立大阪南視覚支援学校（理学療法士） | 15日間 | 1名 |
| 大阪医療福祉専門学校（理学療法士） | 3日間 | 2名 |
| 寝屋川支援学校PTA | 半日 | 30名 |
| 中国浙江省の施設職員 | 半日 | 10名 |
| 元利用者とベトナム大学教授 | 半日 | 2名 |
| 大阪市更生療育センター（言語聴覚士） | 1日間 | １名 |

**◆講師派遣**

　「居宅介護職員初任者（障がい者ホームヘルパー）研修」や「日常生活自立支援事業生活支援員会議（研修）」、

「大阪府サービス管理責任者等研修」等5件の研修会へ講師派遣を行った。

**４．その他**

施設の支援力向上を目的に、退所者にアンケート調査を実施している。アンケート結果は、集計後ホームページに掲載した。